



世界的すさまじく発想。



2023年6月23日

日本化薬株式会社

JFE エンジニアリング株式会社

## 日本化薬 11 拠点で JFE エンジニアリングの 「多拠点一括エネルギーネットワークサービス」を導入 ～CO<sub>2</sub> 排出量大幅削減、BCP 機能の強靭化を実現～

日本化薬株式会社（社長：涌元 厚宏、本社：東京都千代田区、以下「日本化薬」）と JFE エンジニアリング株式会社（社長：大下 元、本社：東京都千代田区、以下「JFE エンジニアリング」）は、日本化薬の工場で発電した電力を国内の事業所に融通する「多拠点一括エネルギーネットワークサービス」（サービス名称「JFE-METS<sup>※1</sup>」、以下、同）の実施について基本合意しました。本サービスにより、日本化薬は対象拠点全体の CO<sub>2</sub> 排出量削減と BCP 機能の強靭化を実現します。

日本化薬グループは 2030 年度 CO<sub>2</sub> 排出量を 2019 年度比で 32.5%削減（Scope1,2）、2050 年度カーボンニュートラル達成を目標に設定しています。このような中、JFE-METS の導入に向け両社で検討を進めた結果、2025 年 4 月の運用開始を目指し、以下のとおり合意しました。

（合意内容）

- ・JFE エンジニアリングが日本化薬の高崎工場にガスコージェネレーションシステム<sup>※2</sup>を設置し、「電力」と「熱」を供給
- ・JFE エンジニアリングは JFE-METS の仕組みを用いて、高崎工場で発電した余剰電力に JFE エンジニアリンググループが保有する電力を加え、送電ネットワークを活用して高崎工場を除く 10 拠点（各生産拠点や各研究所等）に電力供給

また、日本化薬は福山工場に JFE エンジニアリンググループが提供する太陽光 PPA<sup>※3</sup>を導入しており、JFE-METS と併せて CO<sub>2</sub> 排出量を約 15,000t/年（日本化薬グループ 2019 年度比 11.5%）削減できる見込みです。

さらに、設置するガスコージェネレーションシステムは、ブラックアウトスタート<sup>※4</sup>機能を有しており、電力系統の停電時にも高崎工場の電力と熱の供給を継続することができ、BCP 機能の強化にも貢献します。

日本化薬は、今後も CO<sub>2</sub> 削減を進めると共に、脱炭素社会実現に貢献する製品の提供やバリューチェーン全体での脱炭素化を目指してまいります。

また、JFE エンジニアリンググループはエネルギー分野をはじめ、お客様のカーボンニュートラルに向けた取り組みに対して、トータルソリューションをワンストップで提供してまいります。

※1 「JFE-METS」 : <https://www.jfe-eng.co.jp/products/power/ele04.html>

2019 年度省エネ大賞受賞 (2020 年 1 月 30 日公表)

<https://www.jfe-eng.co.jp/news/2020/20200130.html>

※2 都市ガス等を利用して発電し、発電時に生じる熱を活用することでエネルギーを無駄なく利用できるシステム

※3 太陽光 PPA モデル導入 (2023 年 3 月 1 日公表)

<https://u-energy.jp/news/release/78.html>

※4 ブラックアウト (系統停電) の状態から、外部電源を受電することなく、停電解消のための発電を行うこと

【日本化薬のエネルギーネットワークサービス概念図】



■日本化薬株式会社 高崎工場について

日本化薬 高崎工場では、高品質な抗がん薬を製造し、医療現場に安定供給しております。サステナブルな社会の実現を目指し、人々の健康と自然環境との調和・共生を目指して、今後も地域と共に事業活動を展開してまいります。

以上

=====  
<お問い合わせ先>

日本化薬株式会社 コーポレート・コミュニケーション部

03-6731-5237